

INTERVIEW
郷土芸能フェスティバル参加者



細野一区
輪太鼓踊り
にしうじしんご
西氏真悟さん (39)

18歳のときから輪太鼓踊りをしています。郷土芸能フェスティバルに向けては、1ヶ月前から練習しており、終わった後は達成感があります。人が少なくなっている現状もありますが、「細野の輪太鼓ってすごい」と思われるような踊りを、楽しみながら続けていければと思っています。



須木鳥田町
いちよう太鼓
ひらのほのか
平野萌香さん (15)

小・中学生14人で活動しています。小さい子もいるので、太鼓の音をそろえたりすることは大変ですが、発表後に地域の人に「偉いね」、「頑張っているね」と言われることがうれしいです。今年卒業となりますが、できるときは練習などに参加していきたいと思っています。



野尻三ヶ野山
鉦踊り
ふちがみてっしん
淵上鉄心さん (11)

鉦をたたきながら踊るのは難しく、覚えるのがすごく大変だったけど、保存会の皆さんが優しく教えてくれて覚えることができました。本番では、緊張もしたけど、練習どおりに踊れました。みんなで一緒に頑張ってきたのでうれしかったです。

野神楽(高原町)、牛越えまつりで知られる「鏡とき踊り(えびの市)も出演。「民俗芸能体験交流会」も行われ、西諸広域の伝統芸能を受け継いでいる小中学生が、お互いの芸能を体験して交流を深めました。

今月号では、郷土芸能フェスティバルの参加者や小林市郷土芸能保存会連合会会長の話などから、小林市の郷土芸能についてお知らせします。

【第6回郷土芸能フェスティバル】 1 いちよう太鼓(いちよう太鼓保存会) 2 岡原田の神踊り(岡原田の神踊り保存会) 3 岩戸神楽(岩戸神楽保存会) 4・14 東麓新地馬場棒踊り(東麓新地馬場棒踊り保存会) 5 細野一区輪太鼓踊り(細野一区輪太鼓踊り保存会) 6 民俗芸能体験交流会 7 鉦踊り(栗須小学校文化財愛護少年団) 8 永田町馬踊り(永田町馬踊り保存会) 9 紙屋城攻め踊り(紙屋城攻め踊り保存会) 10 真方一区兵児踊(真方一区兵児踊保存会) 11 東方輪太鼓踊り(東方中学校文化財愛護少年団) 12 剣舞一の谷(剣舞一の谷保存会) 13 民俗芸能体験交流会

第6回小林市郷土芸能フェスティバルが、平成29年11月26日に文化会館で開催されました。

郷土芸能フェスティバルは、市内で、永い年月の間、各地で舞い継がれてきた伝統芸能が一堂に会し、披露するイベントで、3年に1度開催しています。

今回は、小林市郷土芸能保存会連合会に所属する11の団体が出演し、市内外から延べ700人が来場。各団体が地区に伝わる悠久の舞や演奏を披露すると、会場は大きな拍手に包まれていました。

また、特別ゲストとして、国指定無形民俗文化財の「狭

3年に1度開催の郷土芸能の披露の場

11の伝統芸能を披露延べ700人が来場

特集
受け継ぐ郷土の心
わがまちの郷土芸能



「郷土芸能」を動画で見る

YouTube 小林市公式チャンネルで、市内 11 の郷土芸能を動画で公開しています。各画像右下の QR コードをスマートフォンで読み取ると視聴できます。ぜひご覧ください。



東麓新地馬場棒踊り
(野尻町東麓地区)



真方一区兵児踊
(真方地区)



永田町馬踊り
(細野永田町地区)



東方輪太鼓踊り
(東方地区)



紙屋城攻め踊り
(野尻町紙屋地区)



剣舞一の谷
(須木麓地区)



岩戸神楽
(堤・水流迫地区)



岡原田の神踊り
(北西方岡原地区)



細野一区輪太鼓踊り
(細野地区)



鉦踊り
(野尻町三ヶ野山地区)



いちよう太鼓
(須木鳥田町地区)

INTERVIEW 市郷土芸能保存会連合会 会長



市郷土芸能保存会連合会 会長
岩戸神楽保存会 会長
田原 治男さん (74)

郷土芸能は郷土の「誇り」。みんなで守っていきましょう。

担い手不足は深刻 郷土の誇りを守る

少子高齢化などの影響で郷土芸能の担い手不足は深刻な問題となっています。実際に、市でもここ数年で2つの郷土芸能の踊り手がいなくなり、存続できなくなっています。郷土芸能は、源平合戦など戦にちなんだものや五穀豊穡を祈るものなどさまざまです。その中で、共通するのはその地域の風土や生活、歴史などと密接に関係しているということです。だからこそ、郷土芸能は郷土の誇りであり、守り続けなければならぬものなのです。

歴史や文化を知り、大切さを知ってほしい

郷土芸能を守るためには、それぞれの地区の方々の協力が必要です。そこで、いかに大切なものか気づいてもらうことが重要です。私は、岩戸神楽の歴史の研究もしてお

り、地元の三松中学校や生涯学習講座などでその知識を共有する取り組みを行っています。歴史を知ると、共感や感動が生まれます。その思いは、郷土を好きになるきっかけとなり、守らないといけないという気持ちに変わっていくものだと信じています。

また、郷土芸能フェスティバルなど、人前で披露する場を作っていくことも大切です。何より、フェスティバルでは、伝統芸能の保存会同士の交流も生まれます。お互いに情報交換して、伝統を継承するための方法についても、話し合っています。

魅力的な郷土芸能を楽しんでください

郷土芸能は、とても魅力的なものばかりです。だからこそ、これからも工夫して、多くの人に楽しんでもらえるよう取り組みを行っていきましょうので、皆さんのご協力をお願いいたします。

▼昨年の岩戸神楽の様子。岩戸神楽は、毎年7月30日に堤の岩戸神社で行われるもので、市内では唯一の神楽です。



郷土芸能を守り 郷土の心を受け継ぐ

各地域で長年にわたり受け継がれてきた郷土芸能。これまで、守り続けてきたのは、年代を超えた地域の強い「絆」があったからこそ。その「絆」をこれからも育んでいくために、郷土芸能を受け継いでいくことは大切なことです。

田原さんは、「郷土芸能を守るためには、地域住民の協力が何より大切」と話しています。郷土に残る伝統芸能を守ることは、大人から子どもへと郷土の「心」を受け継ぐことなのかもしれません。

まずは、自分の地域の郷土芸能を見ること、知ることだけでも、継承につながるのではないのでしょうか。